

国語 第6学年 筆者の工夫をとらえて読み、それをいかして書こう

自分の学級に合わせて直すプロンプト

下の枠の文を全部そのままAI（ChatGPT・Claude・Gemini など）に貼り、質問に答えると、この単元の学習指導案が自分の学級に合わせて直ります。枠の後半には、直す対象の学習指導案が入っています。

あなたは小学校国語の授業づくりを手伝う相手です。この後に続く、第6学年の説明的な文章「『鳥獣戯画』を読む」の学習指導案を、私の学級に合わせて直してください。直す前に、次の五つを一つずつ私に質問し、全部の答えがそろうまで学習指導案を書き換えしないでください。一つ目、学級の人数と、支援が必要な子の様子。二つ目、既習の内容（前の説明文の単元で学んだこと、事実と意見を区別できるか）。三つ目、この学級でつまづきそうな所。四つ目、この単元に使える時数と本時の位置。五つ目、使える端末や提示機器。答えがそろったら、次の決まりで直してください。学習指導要領（平成29年告示）の文言から外れない。教科書の本文・問題文・ページ番号は書かず、引用が必要な所は「教科書の該当箇所を開く」と書く。絵巻は「鳥獣人物戯画」と場面の呼び方で書く。評価規準の文末は「～している」「～しようとしている」のままにする。数字は私が答えた物と出典のある物だけを使う。直し終えたら、変えた所の一覧を作り、どの答えを根拠に変えたかを一つずつ添える。見出しと項目名は元のまま。読む活動と書く活動を区別し、各領域の評価規準に対応した時間を残してください。直す対象の学習指導案は、この後に続けて書きます。

————ここから直す対象の学習指導案————

第6学年 国語科学習指導案

1 単元名 「筆者の工夫をとらえて読み、それをいかして書こう」 教材名 「『鳥獣戯画』を読む（高畑勲）／発見、日本文化のみりよく」

2 単元目標

文章の構成や展開について理解し、比喩や反復などの表現の工夫に気付くことができる（(1)カ・ク）。事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえて要旨を把握し、文章と絵を結び付けて、論の進め方について考えることができる（C(1)ア・ウ）。言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して思いや考えを伝え合おうとする（学年の目標(3)）。日本文化を紹介するために、事実と感想・意見を区別し、伝えたいことに合わせて詳しくや表現を工夫して書ける（B(1)ウ）。

3 単元の評価規準

〔知識・技能〕①文章の構成や展開、文章の種類とその特徴について理解している。（(1)カ）

〔知識・技能〕②比喩や反復などの表現の工夫に気付いている。（(1)ク）

〔思考・判断・表現〕①「読むこと」において、事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握している。（C(1)ア）

〔思考・判断・表現〕②「読むこと」において、目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりしている。（C(1)ウ）

〔思考・判断・表現〕③「読むこと」において、文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。（C(1)カ）

〔思考・判断・表現〕④「書くこと」において、紹介する目的に合わせて詳しく書く所と短く書く所を選び、事実と感想・意見を区別して、日本文化を紹介する文章を書いている。（B(1)ウ）

〔主体的に学習に取り組む態度〕①粘り強く論の進め方について考え、学習課題に沿って、表現の工夫について考えたことを文章にまとめて話し合おうとしている。

4 指導上の考察

（1）単元について

本教材は、国宝の絵巻「鳥獣人物戯画」（高山寺所蔵）の、兎や蛙や猿が人のようにふるまう場面を示しながら、その絵巻のよさを解説する説明的な文章である。絵に描かれている事実と書き手の評価や感想が区別して並べられ、書き出し、結論の位置、読む人への語りかけ、比喩や短い文の繰り返し、絵を見せる順番に工夫がある。学習指導要領第5学年及び第6学年のC(1)ア「事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握すること」と、C(1)ウの、文章と図表などを結び付けて論の進め方について

考える学習に向いている。図表や写真などを含む説明的な文章を取り上げること（第3の3(3)）、古典について解説した文章を読むこと（〔知識及び技能〕(3)イ）にも当たる。光村図書の年間指導計画例では、書くことの教材「発見、日本文化のみりよく」と一つの单元になっており、ここで見つけた工夫を次の書くことの学習につなぐ。この单元は後半に「発見、日本文化のみりよく」を置く。前半で捉えた論の進め方や表現の効果を、事実と感想・意見を区別して書くB(1)ウの活動へつなげる。

（2）児童について（学級の実態を書く）

（3）指導について

指導に当たっては、次の三つを大切にする。まず、絵を見るのは文章を読むための活動とし、絵巻の鑑賞を目的にしない。絵の該当部分を指してから文を読む手順で、文章と絵を結び付けて読ませる（C(1)ウ）。次に、絵に描かれている事実と評価や感想を、文末の言い方と、絵を見て確かめられるかの二つの手がかりで区別させ、区別が崩れたら色分けに戻る（C(1)ア）。そして、見つけた工夫を「なかったら」「順番が逆だったら」と置き換えて比べ、読む人への効果を考えさせる。文章の構成や表現の工夫（(1)カ・ク）は、別の時間を立てず、読む活動の中で扱う（第3の1(3)）。単元の終わりには、考えたことを文章にまとめ、読み合って考えを広げる（C(1)カ、C(2)ア）。後半は児童が選んだ日本文化について、調べた事実と自分が感じるよさを別にメモし、読む相手に合わせて説明の詳しさを変える。書籍や画像を使う場合は出典を確認し、本文や画像を無断転載しない。

5 指導と評価の計画（全10時間）

第1次 第1時：○高山寺の公式サイトなどで絵巻の図版を見て、気付いたことを出し合う。○全文を読み、文章の種類（絵を解説する文章）と書いた人確かめる。絵巻の時代と所蔵を、文章と公式サイトで確かめる。○単元の課題「どんな工夫でこの絵巻のよさを読む人に伝えているか」を決め、最後に自分の考えを文章にまとめて話し合う見通しをもつ。 評価：態①（見通しの記述）

第2次 第2時：○段落ごとに、絵に描かれていることを述べた文と、評価や感想の文を色分けする。○文章全体の組み立てと要旨を一文にまとめる。 評価：知①・思①（色分けシート・ノート）

第2次 第3時（本時）：○書き出し・結論の位置・語りかけ・比喩や繰り返し・絵の見せ方の工夫を見つけ、「なかったら」と比べて効果を考える。 評価：知②・思②（工夫カード・振り返り）

第2次 第4時：○いちばん効果的だと考える工夫の一つを選び、叙述と絵を根拠に理由を書いて文章にまとめる。 評価：思②（まとめた文章）

第3次 第5時：○グループで文章を読み合い、同じ工夫を選んだ人の理由の違いと、違う工夫を選んだ人の根拠を話し合い、自分の文章に一文書き足す。○学校図書館で絵巻や日本の文化の本を探し、読みたい本を一冊決める。○単元を振り返る。 評価：思③（書き足した一文・発言） 態①（振り返り・話し合いの様子）

第4次 第6時：○紹介したい日本文化と読む相手を決め、確かめた事実と自分が感じるよさを分けて材料を集める。 評価：知①（材料の分類）

第4次 第7時：○紹介の中心を決め、資料の出典を確認する。前半で読んだ説明の工夫から、自分の文章で使うものを選ぶ。 評価：思④（構成メモ）

第4次 第8時：○事実と感想・意見を区別し、詳しくする所と短くする所を考えて紹介文を書く。 評価：思④（下書き）

第4次 第9時：○読み合い、事実の出典、感想の理由、資料と文章の対応を確かめ、読み手に伝わるように直す。 評価：思④（推敲前後の文章）

第4次 第10時：○紹介文を交流し、読む学習で気付いた工夫をどう書くことに使ったかを振り返る。 評価：思④・態①（完成稿・振り返り）

6 本時の指導（3/10）

（1）本時の目標

論の進め方と表現の工夫を見つけ、絵と文章を結び付けて、読む人への効果を説明できる。((1)カ・ク、C(1)ウ)

（2）学習過程

【導入】

学習活動：1 前時の色分けシートで、事実の文と評価の文がどの順に並んでいるかを確認する。

2 主発問について、予想を一文で書く。

○「もし、絵の説明より先に評価を全部述べていたら、読む人の受け取り方はどう変わるだろう」

【めあて】論の進め方と表現の工夫を見つけ、読む人への効果を考えよう。

指導上の留意点：・前時の色分けシートを黒板に貼る。

・予想を一文で書いてから活動に入る。発問を重ねず、叙述を基に考える時間を長く取る。

【展開】

学習活動：3 一人で、書き出しの一文、結論にあたる文、読む人に語りかける言い方、比喻や繰り返し、短い文が続く所に印を付ける。

4 ペアで、印を付けた所を一つ選び、「この言い方がなかったら」「順番が逆だったら」と置き換えて、読む人の気持ちはどう変わるかを話す。

5 グループで、教科書の絵の部分と公式サイトなどの絵巻全体を見比べ、なぜその部分をその順番で見せたのかを、文章の進め方と結び付けて考える。

予想される児童の反応：・絵の説明が先だから、読む人も自分の目で確かめながら読める。

・評価が後に来ると、絵を見てきた分だけ納得できる。

・語りかけがあると、自分も答えを探しながら読む。

指導上の留意点：・引用は教科書の該当箇所を開いて指す。絵巻は「鳥獣人物戯画」と呼び、兎と蛙が相撲をとる場面など、場面の呼び方で話す。

・印が付けられない子には「書いた人の気持ちが入っている言葉か、絵にあることか」の二択で問う。

・事実と評価の区別が崩れたら、前時の色分けに戻す。

・読みにくい子には拡大した写しを用意し、必要なら音声で聞かせる。

・端末がある学級では、公式サイトで絵巻全体を各自が拡大して見る。

・進んでいる子には「自分が絵の解説文を書くなら、どの工夫を使うか」を考えさせ、次の書くことの単位につなぐ。

評価：知② 比喻や反復などの表現の工夫に気付いている。(工夫カード)

【まとめ】

学習活動：6 振り返りを書く。工夫を一つ選び、その効果を「絵」「読む人」の二つの言葉を使って二文で書く。

7 数人が振り返りを読む。

8 次時の学習を知る。

指導上の留意点：・振り返りの型を板書の左端に示しておく。

・次時は、工夫を一つ選んで理由を文章にまとめることを伝える。

評価：思② 文章と絵を結び付けて、論の進め方や表現の工夫が読む人に与える効果を考えている。(振り返り・工夫カード)

(3) 板書計画(縦書き・右から左へ)

右端：題名と書いた人の名前、めあて「論の進め方と表現の工夫を見つけ、読む人への効果を考えよう」。

中央右：段落の並びを帯で示し、事実の文を青、評価の文を赤で表す。

中央左：工夫の三つの箱(組み立て・言葉の使い方・絵の見せ方)と、矢印の先の効果。

左側：合い言葉「事実と評価を区別する」「絵と文章を結び付ける」。

左端：振り返りの型。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

